

日常生活の指導

目 次

○ 指導計画作成の立場	39
○ 一日の生活の流れ	41
○ 指 導 計 画	
・ 登 校	44
・ 朝の時間	48
・ 授 業	64
・ 休み時間	64
・ 給 食	76
・ 掃 除	82
・ 帰りの時間	84

1 指導計画作成の立場

(1) 基本的な考え方

子供たちの様子を見ると、自分のことは自分でしたいという欲求の増大に伴って、自分で服を着ようとしたり、自分で食事をしようとしたりするようになってくる。しかし、手指の巧み性が、まだ十分に発達していなかったり、自分でしようという気持ちを持って取り組んでいても少し困難な状況に陥ると、すぐに周囲の大人に依存的になってしまったりなどして、基本的な生活習慣が身に付いていない子供が多い。また、基本的な生活習慣は、ほぼ身に付いている子供でも、集団生活や社会生活を営む上でのルールや役割、マナーなどの理解が十分でなかったり、健康管理や余暇の利用など自分の生活を更に豊かにしていこうとする意識が持てていなかったりする。

このような子供たちに対して、子供たちの欲求の芽ばえを大切にしながら、一人一人の日常生活が充実し、より高まるように、日常生活の諸活動を生活の流れに沿って、実際の状況下で適切に援助しようとするものが日常生活の指導である。その内容は、衣服の着脱、洗面、手洗い、排せつ、食事、清潔などにかかわる基本的な生活習慣に関する内容やあいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、決まりを守ることなどの集団生活をする上で必要な内容等多様な内容が取り上げられる。

このような内容を、毎日反復して指導、援助することによって発展的に身に付けさせようとする日常生活の指導は、子供たちの身辺自立や社会自立を目指す精神発達遅滞児の教育において、最も基礎的で重要な役割を占めており、全ての指導の根底をなすものである。

そこで、指導に当たっては、子供たちの発達段階を正しく理解し、個別的、段階的な指導をしていき、基礎的な知識や技能を高めるようにしていきたい。具体的には、自分のことは自分でしたいという欲求を持ってきつつありながらも、基本的な生活習慣が身に付いていない子供たちには、適切な援助を準備して、食事、排せつ、衣服の着脱などの基本的な生活習慣を身に付け、習慣化を図っていくようにしたい。そして、自分のことは自分でしたいという欲求だけでなく、他人から承認されたい、集団の中に参加したいという欲求も持ってきつつある子供たちには、身に付けてきた基本的な生活習慣を、一層伸ばしていくとともに自分の姿に目を向けさせ、他者とのかかわりの中で承認の欲求を満足させながらより細かな技能面の向上や家庭での習慣化を促していきたい。また、あいさつや言葉遣い、役割のある遊び、時間や決まりを守ることなど、集団生活を行うために必要な内容も指導していくようにしたい。さらに、働くことや身近な社会とのかかわりに関する欲求も持ってきつつある子供たちには、あいさつや返事、集団でのルール、公共の施設利用のマナー、健全な異性観などといった、社会生活を過ごす上で必要な内容も身に付けさせ、習慣化を図していきたい。

このような日常生活の指導を通して、子供たちは自分のことが自分でできるようになるとともに、自分の生活をよりよくしていこうとする意欲や態度を持つようになり、個人生活から集団生活、社会生活へとかわりを広げていくことができると考える。

(2) 目 標

- 日常生活における基本的な生活習慣についての基礎的な知識・技能・態度を養い、身近生活の向上、自立を図る。
- 基本的な生活習慣を確立し、家庭生活や学校、地域社会といった集団生活を営むために必要な知識・技能・態度を養い、集団生活への適応を図る。
- 将来の社会生活への関心を高め、社会の一員として行動できるための、基礎的な知識・技能・態度を養い、社会生活への適応を図る。

(3) 指導計画作成上の配慮事項

- ① 日常生活の指導は「生活の流れに沿って、実際の状況下で適切に援助しようとする」という指導の特質から、本校では、各学部において、毎日の学校生活の流れの中で、個別的、段階的に指導に当たっていくことにする。

2 活用上の留意点

- (1) 指導計画の活動内容や留意点で述べた内容は、一つの指導例であり、それぞれの子供の発達や障害の状態に応じた指導の在り方を工夫していくようにする。
- (2) 発達段階の高低にかかわらず、年齢段階を考慮した指導も大切にする。
- (3) 個人別チェックリストを作成し、評価の充実を図るとともに、継続的に指導に当たれるようにする。

一日の生活の流れ

小 学 部	中 学 部	高 等 部
<p>I 登 校</p> <p>1 登校</p> <p>2 靴を履き替える。</p>	<p>I 登 校</p> <p>1 登校</p> <p>2 靴を履き替える。</p> <p>3 タイムカードを押す。</p>	<p>I 登 校</p> <p>1 登校</p> <p>2 靴を履き替える。</p> <p>3 タイムカードを押す。</p>
<p>II 朝の時間</p> <p>1 朝の支度</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) 連絡帳を出す。</p> <p>(3) かばんを棚に置く。</p> <p>(4) 更衣をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ロッカーから体育服を持ってくる。 制服を脱ぐ。 体育服を着る。 制服を畳む。 ロッカーに始末する。 <p>2 係の仕事をする。</p> <p>3 委員会活動 (3組だけ)</p> <p>4 朝の会</p> <p>(1) 歌</p> <p>(2) あいさつ</p> <p>(3) 出欠, 健康観察</p> <p>(4) 今日の勉強</p> <p>(5) 先生の話</p>	<p>II 朝の時間</p> <p>1 朝の支度</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) 連絡帳を出す。</p> <p>(3) かばんを棚に置く。</p> <p>(4) 更衣をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 更衣室に行く。 ロッカーから体育服を出す。 制服を脱ぐ。 体育服を着る。 制服をハンガーに掛ける。 <p>2 係の仕事をする。</p> <p>3 朝の運動をする。 (ピロティ)</p> <p>(1) ランニングをする。</p> <p>(2) 手洗い・うがい・汗ふきをする。</p> <p>4 委員会活動</p> <p>5 朝の会</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>(2) 歌</p> <p>(3) 健康観察</p> <p>(4) 係の仕事</p> <p>(5) 先生の話</p>	<p>II 朝の時間</p> <p>1 朝の支度</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) 日課帳を出す。</p> <p>(3) かばんを棚に置く。</p> <p>(4) 更衣をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 更衣室に行く。 ロッカーから体育服を出す。 制服を脱ぐ。 体育服を着る。 制服をハンガーに掛ける。 <p>2 係の仕事をする。</p> <p>3 朝の運動をする。 (グラウンド)</p> <p>(1) タイヤ引き, サーキットをする。</p> <p>(2) 手洗い・うがい・汗ふきをする。</p> <p>4 委員会活動</p> <p>5 朝の会</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>(2) 健康観察</p> <p>(3) 今日の約束</p> <p>(4) 歌</p> <p>(5) 先生の話</p>

小 学 部	中 学 部	高 等 部
Ⅲ 授 業	Ⅲ 授 業	Ⅲ 授 業
Ⅳ 休み時間 1 排せつ 2 遊び 3 うがい・手洗い・汗ふき	Ⅳ 休み時間 1 排せつ 2 授業準備 3 遊び (2時間目, 昼休み) 4 うがい・手洗い・汗ふき	Ⅳ 休み時間 1 排せつ 2 授業準備 3 遊び (2時間目, 昼休み) 4 うがい・手洗い・汗ふき
Ⅴ 給 食 1 手洗い 2 準備 ・ 給食着を着る。 ・ 牛乳などを配る手伝いをする。(2, 3組) 3 食事 4 片付け ・ 自分の食器を片付ける。 5 歯磨き	Ⅴ 給 食 1 手洗い 2 準備(学級ごとに交替で当番をし, 準備する。) ・ 給食着を着る。 ・ 配ぜんをする。 ・ 給食着を脱いで各学級に知らせる。 3 食事 4 片付け ・ 自分の食器を片付ける。 ・ (給食当番が) 給食室の掃除をする。 5 歯磨き	Ⅴ 給 食 1 手洗い 2 準備(学級ごとに交替で配ぜんをし, それぞれセルフサービスで準備をする。) ・ 給食着を着る。 ・ 配ぜんをする。 ・ 一人ずつセルフサービスで準備をする。 3 食事 4 片付け ・ 自分の食器を片付ける。 ・ (給食当番が) 給食室の掃除をする。 5 歯磨き
Ⅵ 掃 除 1 掃除をする。 (教室…床をぞうきんでふくなど) 2 うがい, 手洗い	Ⅵ 掃 除 1 掃除をする。 (教室, 廊下, トイレなど) 2 うがい, 手洗い	Ⅵ 掃 除 1 掃除をする。 (教室, 廊下, トイレなど) 2 うがい, 手洗い

小 学 部	中 学 部	高 等 部
<p>Ⅶ 帰りの時間</p> <p>1 帰りの支度</p> <p>(1) 排せつ</p> <p>(2) 更衣をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロッカーから制服を持って来る。 ・ 体育服を脱ぐ。 ・ 制服を着る。 ・ 体育服を畳む。 ・ ロッカーに始末する。 <p>(3) かばんを棚から持って来る。</p> <p>(4) 連絡帳を入れる。</p> <p>2 帰りの会</p> <p>(1) 一日の反省</p> <p>(2) 先生の話</p> <p>(3) 歌</p> <p>(4) あいさつ</p>	<p>Ⅶ 帰りの時間</p> <p>1 帰りの支度</p> <p>(1) 排せつ</p> <p>(2) 更衣をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 更衣室に行く。 ・ ハンガーから制服を外す。 ・ 体育服を脱ぐ。 ・ 制服を着る。 ・ 体育服を畳み、ロッカーに始末する。 <p>(3) かばんを棚から持って来る。</p> <p>(4) 連絡帳を入れる。</p> <p>2 帰りの会</p> <p>(1) 一日の反省</p> <p>(2) 先生の話</p> <p>(3) 歌</p> <p>(4) あいさつ</p>	<p>Ⅶ 帰りの時間</p> <p>1 帰りの支度</p> <p>(1) 排せつ</p> <p>(2) 更衣をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 更衣室に行く。 ・ ハンガーから制服を外す。 ・ 体育服を脱ぐ。 ・ 制服を着る。 ・ 体育服を畳み、ロッカーに始末する。 <p>(3) かばんを棚から持って来る。</p> <p>(4) 日課張や体育服を入れる。</p> <p>2 帰りの会</p> <p>(1) 一日の反省</p> <p>(2) 先生の話</p> <p>(3) 歌</p> <p>(4) あいさつ</p>
<p>Ⅷ 下 校</p> <p>1 靴を履き替える。</p> <p>2 下校</p>	<p>Ⅷ 下 校</p> <p>1 タイムカードを押す。</p> <p>2 靴を履き替える。</p> <p>3 下校</p>	<p>Ⅷ 下 校</p> <p>1 タイムカードを押す。</p> <p>2 靴を履き替える。</p> <p>3 下校</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
I 登 校 1 登 校	○ 親の付き添いで、交通安全や登校の決まりに気を付けて登校することができる。 ○ 通学路が分かり、交通安全や登校の決まりを守って、一人で登校することができる。 ○ 交通規則や公衆道徳を守って、一人で安全に登校することができる。	○ 道路を安全に歩く。 ・ 自動車に気を付け、右側を歩き、歩道のある場合は歩道を歩く。 ・ 横断するときは、横断歩道や歩道橋を歩き、信号のある横断歩道では信号に従って横断する。 ・ 道路を横断するときは、左右を確認し、手を挙げて渡る。 ・ 踏切を渡るときは、左右を確認し、警報機のあるときは、それに従う。 ・ 道路へ急に飛び出さない。 ・ 横に広がったり、大声を出したり、ふざけたりしないで歩く。 ・ 歩きながら看板や商品などに触れない。 ・ 「通行止め」「横断禁止」「危険」などの標識の指示を守って歩く。 ○ バスや電車を利用する。 (1) 利用する停留所へ行く。 (2) 停留所では静かに並んで待つ。 (3) バスや電車が停車してから順番に乗る。 (4) バスに乗ったら整理券を取る。 (5) 車内では、マナーを守る。 ・ 歩き回らない。 ・ 大きな声で話をしない。 ・ 料金箱の周辺に立たない。など (6) 降車する停留所の前で降車ボタンを押す。 (7) 料金箱に整理券を入れ、定期券や友愛パスを運転手にはっきり見せ、お礼を言って降りる。 (8) 乗り換えをする。 ○ 傘を正しくさしたり、持ったりする。 ・ 人のいない方へ向けてさす。 ・ 進行方向が見えるようにさす。 ・ 使用しないときは、バンドで止めて開かないようにして持つ。 ・ 畳んだ傘で人を突いたり、振り回したりしない。

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 親が付き添うときは、信号の見方や横断歩道の渡り方など、言葉掛けしながら行うが、徐々に援助を少なくしていく。 ・ 親と一緒に歩くときは、子供を親の右側に位置させ、安全確保に努めるようにする。 ・ 通学路、登校時刻、欠席、遅刻等の連絡については、家庭と密接な連絡を取り合うようにする。 ・ 学期始めは、安全面への意識を高めるために、親と一緒に通学路や通学方法を確認させるようにする。 ・ 登校時における望ましい態度について話し合う機会（通学子とも会など）を計画実施し、交通規則や公衆道徳を意識させるとともに、お互いに注意し合ったり、助け合ったりできるようにする。 	生・健 1-7, 9 2-7, 13 3-10 ～12 生・決 1-7 2-1, 7, 8 3-3 生・公 1-1, 2 2-2 3-2, 8 道 4-(2)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭との連携を図りながら、全面付き添いによる登校から一人通学に向けて、個に応じた段階的な指導を進めるようにする。 (例) ・ バスの中では子供と離れた場所に乗り、決まった停留所で降りる練習をする。 ・ 停留所まで一緒に行き、バスや電車に乗せ、決まった停留所で一人で降りる練習をする。その際、降りる停留所で待って確認する。 ・ 家から一人で出し、後をついてバスや電車に乗るのを確認する。など ・ バス停留所と学校との間の通学路も、教師が定期的に観察し、指導していく。 ・ 乗り違えたり、迷子になったりしたときなどの行動についても、話し合う機会を持たせるとともに、学校の電話番号が入ったネームを付けさせ、身分証明書を持たせておく。 ・ 行事や他の学習でバスや電車などを利用する際は、利用のマナーについて事前に話し合う機会を持つようにする。 ・ 子供に合った大きさや重さ、操作方法の傘を持たせるよう家庭にお願いする。 ・ スナップ式のバンドが難しい子供には、マジックテープ式のものに替えるなどして練習させる。 ・ 子供によっては、雨合羽の着方や、始末の仕方なども指導する。 	国 2-13 4-11 5-13, 16 数 5-6 社 4-2, 7, 12, 27 5-2, 11 16 技・家 4-3, 6 道 2-(1) 生・基 1-33 34 2-38 生・基 3-33

項 目	目 標	活 動 内 容
I 登 校 2 靴の履き 替え	<p>○ 教師の援助で靴を履き替えることができる。</p> <p>○ 一人で靴を履き替えることができる。</p> <p>○ 正しく靴を履き替え、そろえて靴箱に入れることができる。</p>	<p>(1) 下履きを脱ぐ。 ア 腰を下ろし、手で靴のかかとを持つ。 イ 靴のかかとを持った手を、固定または前方へ伸ばすように動かすと同時に、かかとをおしりに付けるような感じに動かして靴を脱ぐ。 ウ 同じようにして、もう一方も脱ぐ。</p> <p>(2) 上履きを靴箱から出す。</p> <p>(3) 下履きを靴箱に入れる。</p> <p>(4) 上履きを履く。 ア 腰を下ろして、靴を足元に置く。 イ 靴の口を手で持ち、足を入れる。 ウ 靴のかかとを手でつまみ引き上げる。 エ 同じようにしてもう一方の靴も履く。</p>
3 タイムカード (中・高のみ)	<p>○ 教師と一緒に、タイムカードを取り出し、押すことができる。</p> <p>○ 目印を付けた自分のタイムカードが分かり、押すことができる。</p> <p>○ タイムカードの扱い方が分かり、毎日忘れずに押すことができる。</p>	<p>(1) 自分のタイムカードを取る。</p> <p>(2) タイムカードを押す。</p> <p>(3) 決められた場所に戻す。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腰を下ろして履くことが上手になったら、靴箱等で体を支えて脱ぐようにさせ、徐々に立ったままで履き替える練習をさせていく。 ・ 靴の種類は、マジックテープやひもの付いていないズック式のものから始め、マジックテープ式やファスナー式のもの、さらにひも式のものへと段階的に指導していく。 ・ 自分の靴箱が分からない子供には、靴箱の名前の部分にシールをはるなどして印を付けておく。 ・ 靴箱に入れるときには、靴の左右をそろえて入れさせる。 ・ 靴の左右が区別できない子供には、利き手の側の靴に子供が興味を示す絵の印を付けたり、左右の靴を並べたときに一つの形ができるような絵の印を付けたりして左右を認識させるようにする。 ・ 子供によっては、靴べらの使用なども指導する。 	<p>生・基 1-32 34</p> <p>生・基 2-36 37 38</p> <p>生・基 3-32 34</p> <p>生・決 1-3</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のタイムカードが分からない子供には、カードにシールをはるなどして印を付けておく。 ・ タイムカードの正しい扱い方（カードの入れ方）は、入れる場所や方向、押し方などについて最初に指導しておく。 ・ タイムカードの扱いに慣れるまでは、そばについて確認、指導をする。 ・ 時刻の読める子供については、タイムカードの時刻で、自分の登校時刻を確認させ、遅刻しないように意識付けていく。 	<p>生・決 2-3 3-3</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
Ⅱ 朝の時間 1 朝の支度	<p>○ 指示や援助を受けながら、教師と一緒に朝の支度ができる。</p> <p>○ 一人で朝の支度ができる。</p> <p>○ 自分から進んで手際よく朝の支度ができる。</p>	<p>(1) あいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち止まり、相手の顔を見て「おはようございます」と元気よく言いながら礼をする。 <p>(2) 連絡帳等を決められた場所に提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① かばんを机の上に置く。 ② かばんを開け、連絡帳等の提出物を取り出す。 ③ 決められた場所に提出する。 <p>(3) かばんを棚に置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① かばんを閉じる。 ② 決められた棚にかばんや帽子を整えて置く。 <p>(4) 更衣をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 更衣室に行く（中・高等部）。 ② 体育服を準備する。 ③ 制服からハンカチ、ちり紙を取り出す。 <p>[男子]</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 上履きを脱ぐ。 ⑤ 上着やシャツを脱ぐ。 <p>ア 一方の手にボタンを持ち、もう一方の手にボタン穴を持つ。</p> <p>イ 両手を少し引っ張るようにしてボタンとボタン穴の間にわずかな張りを作る。</p> <p>ウ ボタンを持っている手の親指か人差し指を使って、ボタンの端を穴の方へ押してボタンを外す。</p> <p>エ 同じようにして次の段のボタンを外す。</p> <p>オ ボタンを全部外し終わったら、片方ずつそでから脱ぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑥ ズボンを脱ぐ。（ベルト式） <p>ア ベルトの先端をズボンのベルト通しの穴から外す。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初は、教師の方から子供に「おはようございます」とあいさつをし、良い手本を示すようにする。 ・ 来客のときなどを活用し、「おはようございます」や「こんにちは」など時や場所に応じたあいさつができるようにする。 ・ 連絡帳や諸提出物は、登校後、速やかに所定の場所に提出させるようにする。また、集金袋等の貴重品は担任に直接渡すようにさせる。 ・ 提出物については、連絡帳で担任と保護者の相互の連絡を確実に行うようにして遺漏のないようにする。 ・ かばんや帽子は棚の中に、また学習帳や筆箱は机の中にきちんと整理して入れられるように、実態に応じて箱を準備したり、帽子掛けを付けておいたりする。 ・ 小学部の子供は教室で、中・高等部は更衣室で着替えさせる。ただし、中学部でも言葉掛けの必要な子供については、教室で着替えさせる。また、中・高等部になるにしたがい一人でできるようになる子供が増えてくるが、担任又は当番の教師が必ず更衣室で指導するようにする。 ・ ボタンの掛け外しがまだうまくできない子供には、大きくて平らなボタンで練習させ、できるようになったら徐々に小さなボタンで練習させるようにする。 ・ ボタンが持ちにくそうであったら、服の生地ボタンを留める際、生地とボタンの間に余裕（糸を長めに留める）を持たせるようにする。 ・ ボタンとボタン穴をうまく持てないような場合、また指先の動きが不十分でボタンをボタン穴に通すことがまだ難しいような場合は、ボタンの代わりにマジックテープを付けて練習させるようにする。 ・ ゴム式のズボンを脱ぐ場合、次のようにする。 ア 子供を立たせて、両手でズボンのゴムの部分を持たせる。 	<p>道 1-(1) 2-(1)</p> <p>生・交 1-4 2-3 3-4</p> <p>社 4-1 5-1</p> <p>生・基 1-34 2-38 3-34</p> <p>生・基 1-31 2-32 33 3-31</p> <p>生・基 1-31</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
II 朝の時間 1 朝の支度	<p>○ 指示や援助を受けながら、教師と一緒に朝の支度ができる。</p> <p>○ 一人で朝の支度ができる。</p> <p>○ 自分から進んで手際よく朝の支度ができる。</p>	<p>イ 右手にベルトの先端を、左手にバックルを持つ。</p> <p>ウ ベルトの先端を引っ張らせて、止め金をベルトから外す。</p> <p>エ バックルからベルトを外す。</p> <p>オ 左右の手でそれぞれかぎホックの部分を持ち、すり合わせるように交差させ、かぎホックを外す。</p> <p>カ ズボンを持ったまま、かがむようにして片方ずつ足を抜く。</p> <p>⑦ 体育シャツを着る。</p> <p>ア 体育シャツの背中の方が上になるようにして置く。</p> <p>イ 両手で体育シャツのすそを持ち、頭からかぶるようにして頭部の部分まで着る。</p> <p>ウ 両手で体育シャツを引き下ろすようにして頭を出す。</p> <p>エ そでに腕を通す。</p> <p>オ 体育シャツのすそを持ち、下まで引き下ろす。</p> <p>⑧ 短パン（ジャージ）をはく。</p> <p>ア 腰を下ろし、前面が上になるようにして短パン（ジャージ）を置く。</p> <p>イ 両手で短パン（ジャージ）のゴムの部分を持つ。</p> <p>ウ 片方ずつ足を入れ、短パン（ジャージ）をひざから大腿部の辺りまで引き上げる。</p> <p>エ 立って短パン（ジャージ）を腰のところまで引き上げる。</p> <p>オ 短パン（ジャージ）の中に、体育シャツのすその部分を入れる。</p> <p>⑨ 上履きを履く。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<p>イ ズボンを大腿部から膝の辺りまで引き下げさせる。</p> <p>ウ 腰を下ろさせて、ズボンを足首の辺りまで下げさせる。</p> <p>エ 片方ずつ足を抜かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 腰を下ろして十分にできるようになったら、次は立って脱ぐ練習をしたり、一人で脱ぐ練習をしたりさせる。 ・ 次のように段階を追って指導していく方法もある。 <p>ア ズボンを足首のところまで手伝って脱がせたら、後は言葉掛けをして子供に脱がせる。</p> <p>イ ズボンをひざのところまで手伝って脱がせたら、後は言葉掛けをして子供に脱がせる。</p> <p>ウ ズボンをお尻のところまで手伝って脱がせたら、後は言葉掛けをして子供に脱がせる。</p> <p>エ 初めから終わりまで一人で脱がせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 左の方法では頭から先に着たが、腕を先に通して着る方法もある。子供の状態に合わせて工夫していくようにする。 <p>・ 体育シャツの前後を間違えて着てしまうような場合は、体育シャツの前か後ろに目印を付けるようにする。例えば、着る前に背中の方を上にして置かせるような場合は、シャツの後ろ（背中側）のすその部分にシールをはったり、子供の名前を書いたりしておく。</p>	<p>生・基 2-32 33 3-31</p> <p>生・基 1-31 2-32 33 3-31</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 次のように段階を追って指導していく方法もある。 <p>ア 短パンを腰の下のところまで手伝ってはかせたら、後は言葉掛けをして子供にはかせる。</p> <p>イ 短パンを腰のところまで手伝ってはかせたら、後は言葉掛けをして子供にはかせる。</p> <p>ウ 短パンを足首のところまで手伝ってはかせたら、後は言葉掛けをして子供にはかせる。</p> <p>エ 初めから終わりまで一人ではかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 腰を下ろして十分にできるようになったら、次は立ってはく練習をしたり、一人ではく練習をしたりさせる。 	<p>生・基 1-31 2-32 33 3-31</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
Ⅱ 朝の時間 1 朝の支度	<p>○ 指示や援助を受けながら、教師と一緒に朝の支度ができる。</p> <p>○ 一人で朝の支度ができる。</p> <p>○ 自分から進んで手際よく朝の支度ができる。</p>	<p>⑩ ハンカチ、ちり紙を短パン（ジャージ）のポケットに入れる。</p> <p>⑪ 脱いだ制服を畳み、ロッカーにしまう。 (小学部)</p> <p>(上着)</p> <p>ア 上着を広げて、前部が上になるようにして置く。</p> <p>イ 前身ごろの部分进行合はす。</p> <p>ウ 左右のそでを畳む。</p> <p>エ すそ（肩）の部分を持って肩（すそ）のところに合はせるようにして畳む。</p> <p>(ズボン)</p> <p>ア ズボンの前部が上になるようにして置く。</p> <p>イ ズボンの片方の部分がもう一方の足に重なるようにして畳む。</p> <p>ウ 重ねた足の部分が半分の大きさになるように畳む。</p> <p>・ これができるようになったら、ズボンの折り目に沿って畳む練習をする。</p> <p>⑫ 身なりを整える。</p> <p>[女子]</p> <p>④ 上履きを脱ぐ。</p> <p>⑤ ブルマー（ジャージ）をはく。</p> <p>ア 腰を下ろし、前にブルマーの前面が上になるようにして置く。</p> <p>イ 片方ずつ足を入れ、ブルマーをひざから大腿部の辺りまで引き上げる。</p> <p>ウ 立って、ブルマーを腰のところまで引き上げる。</p> <p>⑥ 上着を脱ぐ。</p> <p>ア スナップのところに手を持っていき、スナップを外す。</p> <p>イ スナップを全部外し終わったら、身ごろを両手で持って肩を抜く。</p> <p>ウ そで口を持って片方ずつ腕を抜く。</p>

留	意	点	関 連 内 容
・ 短パン（ジャージ）のポケットはお尻の部分に付いているので、あとからハンカチ、ちり紙が落ちることのないようにきちんと入れるようにさせる。			生・基 1-24
・ 中・高等部は、次のような方法でハンガーに掛けさせる。実態によっては、小学部の子供にもハンガーを使わせる。			2-2
(上着)			3-17
ア 上着を広げて、前部が上になるようにして置く。			生・基 2-34
イ 上着は、台の上に置いたままの状態で、ハンガーを上着の両肩の部分に入れる。			35
ウ 上着がハンガーからずり落ちないように、最上段のボタンを掛ける。			3-28
エ ハンガーを所定の場所に掛ける。			
(ズボン)			
ア 折り目に沿って畳ませた状態で子供の前に置く。			
イ ズボンのすそ部分を持ち上げ、ハンガーの中に通す。			
ウ ズボンがハンガーからずり落ちないように、ハンガーがズボンの中央部にくるようにする。			
エ ハンガーを所定の場所に掛ける。			
・ このようにできるようになったら、次はハンガーを所定の場所に固定して掛けておき、それに衣服を掛けさせるようにする。			
さらに、これもできるようになったら、両手にそれぞれハンガーと制服を持って掛ける練習をさせる。			
・ 襟やすそ、ファスナー、髪等がきちんとなっているか、鏡で確かめさせる。			生・基 3-27
・ 小学部においても、中・高学年になるにつれて、教室内に女子用の着替える場所（カーテンを閉めたコーナー）を設定し、そこで着替えさせるなどして性別への意識を持たせる。			道 1-(1)
・ スカートからブルマー（ジャージ）等に着替えるときには、まず、ブルマー（ジャージ）等を身に付けてからスカートを脱ぐなど、できるだけ下着や素肌が目につかないようにさせる。			生・基 1-32
・ 腰を下ろしてはくことから始め、十分にできるようになったら、壁などを支えにしてはいたり、立ってはいたりするようにさせる。			2-37
・ 通常のスナップ操作が難しい場合には、大きなスナップを付けたり、スナップの代わりにマジックテープを付けたりして練習させる。			生・基 1-31
			2-32
			33

項 目	目 標	活 動 内 容
II 朝の時間 1 朝の支度	<p>○ 指示や援助を受けながら、教師と一緒に朝の支度ができる。</p> <p>○ 一人で朝の支度ができる。</p> <p>○ 自分から進んで手際よく朝の支度ができる。</p>	<p>⑦ ブラウスを脱ぐ。</p> <p>ア 一方の手にボタンを、もう一方の手にボタン穴を持つ。</p> <p>イ 両手を引っ張るようにして、ボタンとボタン穴の間にわずかな張りを作る。</p> <p>ウ ボタンを持っている手の親指か人差し指を使いボタンの端を穴の方へ押して外す。</p> <p>エ ボタンを全部外し終わったら、身ごろを両手で持って肩を抜く。</p> <p>オ そで口を持って片方ずつ腕を抜く。</p> <p>⑧ スカートを脱ぐ。</p> <p>(つりスカート)</p> <p>ア つりひもを肩から外す。</p> <p>イ スカートの腰のかぎホックを外す。</p> <p>ウ 脇のファスナーを下ろす。</p> <p>エ スカートの腰の部分を持ち、片方ずつ足を抜く。</p> <p>(ジャンパースカート)</p> <p>ア ベルトを外す。</p> <p>イ 肩のスナップを外す。</p> <p>ウ 脇のスナップを外す</p> <p>エ 脇のファスナーを下ろす。</p> <p>オ 片方の肩を抜き、片方の腕を抜く。</p> <p>カ スカートの腰の部分を持ち、片方ずつ足を抜く。</p> <p>⑨ 体育シャツを着る。</p> <p>ア 背中の方が上になるようにして体育シャツを置く。</p> <p>イ 両手で体育シャツのすそを持ち、頭からかぶせるようにし頭部のところまで着る。</p> <p>ウ 両手で体育シャツを引き下ろすようにして頭を出す。</p> <p>エ そでに腕を通す。</p> <p>オ 体育シャツのすそを持ち、下まで引き下ろす。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きく、平らなボタンから、徐々に小さなボタンへと練習させる。 ・ ボタン操作の難しい子供には、服の生地とボタンの間に余裕を持たせ、操作しやすくする。 ・ ボタンとボタン穴の操作が難しい場合には、マジックテープやスナップをボタンの代わりに付けるなどして練習させる。 ・ かぎホックの操作が難しい場合には、大きなスナップを付けたり、スナップの代わりにマジックテープを付けたりして練習させる。 ・ ベルトは、バックルを外すだけにし、ベルト通しからは抜かないでスカートに付けたままの状態にさせる。 ・ 肩の部分を縫ってある場合は、脇のスナップを外し、ファスナーを下ろしたあとスカートの肩の部分を両手で持って引き上げて脱がせる。 ・ 子供によっては、腕を先に通して着させる方法もある。 ・ 体育シャツの前後を間違えるような場合には、前後の形の違いを教えたり、子供に分かりやすいような目印を付けたりして、前後の区別ができるようにする。 	

項 目	目 標	活 動 内 容
II 朝の時間 1 朝の支度	<p>○ 指示や援助を受けながら、教師と一緒に朝の支度ができる。</p> <p>○ 一人で朝の支度ができる。</p> <p>○ 自分から進んで手際よく朝の支度ができる。</p>	<p>⑩ 上履きを履く。</p> <p>⑪ ハンカチ、ちり紙を、ブルマー（ジャージ）のポケットに入れる。</p> <p>⑫ 身なりを整える。</p> <p>⑬ 脱いだ服を畳む。（小学部）</p> <p>（上着）</p> <p>ア 上着を広げて、前部が上になるようにして置く。</p> <p>イ 前身ごろの部分を合わす。</p> <p>ウ 片そでずつ肩線のところで折る。</p> <p>エ すそ（肩）の部分を持って肩（すそ）のところから合わせるようにして畳む。</p> <p>（スカート）</p> <p>ア スカートの前部が上になるようにして置く。</p> <p>イ つりスカートはウエストの部分でつりを折り、左方の端を持って半分のところから合わせるようにして畳む。</p> <p>ジャンパースカートは両肩の部分を持ち、ウエストの部分から半分に折り、さらに、左方の端を持って半分のところから合わせるようにして畳む。</p> <p>⑭ ロッカーにしまう。（小学部）</p> <p>◎＜靴下の脱ぎ方＞</p> <p>① 腰を下ろして、両手で靴下の上べりの部分をつかむ。</p> <p>② 靴下の上べりの部分をかかとまで下げる。</p> <p>③ 靴下の先の部分を持ち、足から引き抜く。</p> <p>④ 同じようにして、もう一方の靴下も脱ぐ。</p> <p><靴下の履き方></p> <p>① 腰を下ろして、前に靴下の甲の部分が上になるようにして置く。</p> <p>② 両手で靴下の上べりの部分を持つ。</p>

留	意	点	関 連 内 容
			生・基 1-32 2-36
・	ハンカチ，ちり紙は，いつも清潔な物を身に付けさせるようにする。		生・基 1-24
・	襟や上着のすそ，ジャージのファスナーなど，着替えたあとに鏡を見せたり，友達同士で確かめさせたりして，身なりを整える習慣を付けさせる。		3-27 家 4-2
・	中・高等部の子供は次のような方法でハンガーに掛けさせる。（実態に応じて，小学部の子供たちにも取り組ませる。）		生・基 2-34 3-28
	(上着)		2-35
	ア 上着を広げて，前部が上になるようにして置く。		生・基 1-34
	イ 上着は畳や台の上に置いたままの状態でハンガーを上着の両肩の部分に入れる。		2-38 3-34
	ウ 上着がハンガーからずり落ちないように，最上段のボタンを掛ける。		
	エ ハンガーを所定の場所に掛ける。		
	(スカート)		
	ア スカートの前部が上になるようにして置く。		
	イ ハンガーを，つりスカートはつりの部分に，ジャンパースカートは両肩の部分に入れる。ジャンパースカートは肩のスナップを留める。		
	ウ ハンガーを所定の場所に掛ける。		
・	衣服を置いて掛けることができるようになったら，ハンガーを所定の場所に固定させて，それに衣服を掛けさせるようにする。さらに，それができるようになったら，両手にそれぞれハンガーと衣服を持って，掛ける練習をさせる。		
・	ロッカーにしまうときは，衣服を両手で持たせ，静かに中に入れるように言葉掛けする。ロッカーの中にきちんと置けない場合には，中に箱などを置き，そこに服を置かせるなどして練習させる。		生・基 1-34 2-38 3-35
・	靴下の置き方や持ち方は決めておき，履く順序を覚えやすくする。		
・	脱いだあとは，どちらか一方がなくならるように，一つにして置かせるようにする。（片方の靴下の中に，もう片方の靴下を入れる方法や，二枚合わせて上べりのところで外に折り曲げ，つなぐ方法などがある。）		
・	甲の部分とかかとの部分がまだ，分からない子供には，靴下の甲の部分に印を付けておき，それを手掛かりに靴下を履かせるようにする。		

項 目	目 標	活 動 内 容
II 朝の時間 1 朝の支度		<p>③ 靴下の上べりの部分をかかとの辺りまで引き上げる。</p> <p>④ 上べりの部分はそのままの状態、靴下の先がつま先の部分に当たるまで靴下を引き上げる。</p> <p>⑤ 靴下の上べりの部分を持ち、上まで引き上げる。</p> <p>⑥ 同じようにして、もう一方の靴下も履く。</p>
2 係の仕事	<p>○ 教師と一緒に、自分の決められた係の仕事をすることができる。</p> <p>○ 自分の係の仕事が分かり、進んでしようとすることができる。</p> <p>○ 自分の係の仕事を、責任を持ってすることができるとともに、友達の仕事を理解し、援助することができる。</p>	<p>(1) 決められた自分の係の仕事をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カレンダーの係 ・ 机ふき係 ・ 金魚のえさ係 ・ 給食献立表の係 ・ 行事調べの係 <p style="text-align: right;">その他</p> <p>(2) 用具の後始末等をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用した用具を元の場所に戻す。 ・ 手洗いをしたり、身なりを整えたりする。 <p>(3) 係の仕事の報告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 係分担表を裏返す。 ・ 教師に報告をする。 <p>(例)</p> <p>「私は、机ふきの仕事をしました。」</p>

留 意 点	関 連 内 容
<p>◎ 水着に着替える際には、次のようなことに注意させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人前で着替えるときには、バスタオルを体に巻いて、できるだけ、素肌が見えないようにして着替えさせる。バスタオルがうまく巻けない子供には、洗濯ばさみで止めさせたり、バスタオルにゴムやスナップを付けたりするとよい。 ・ 脱いだあとに、下着や体育シャツなどはきちんと畳んで整理しておくように言葉掛けする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 係の仕事を分担させるときは、仕事に対する意識の程度や能力、意欲などを考慮して、適切な内容になるように考慮する。 ・ 小学部1組は、学校生活に慣れてきた二学期ごろから指導を行うようにする。 ・ 係の仕事を習慣化できるように、適切な言葉掛けをしたり、個に応じた援助の仕方を工夫したりする。場合によっては、頑張り賞等を準備するなどして意欲を高めるようにする。 ・ 自分の係の仕事だけでなく、学級の係の仕事を理解し、友達の仕事も援助できるように機会をとらえて指導をする。 ・ 用具を所定の場所に置けるように、用具の収納の場所が視覚的に分かるように工夫をする。 ・ 仕事によっては、終わったら手を洗う、タオルでふく、鏡を見て身なりを整えるなどの指導も行う。 ・ 発達段階に応じて、絵カード、文字カード等で工夫した係分担表を設置し、仕事が終わったら裏返すようにさせる。 ・ 係の仕事の報告は、発達段階に応じて、「身振りで」、「単語カード等で」、「言葉で」など段階的に配慮して指導する。 	<p>生・決 3-1 生・手 1-1 2-4, 5 3-4, 5</p> <p>生・手 2-7 3-7</p> <p>道 1-(3) 道 2-(3)</p> <p>生・手 1-2 2-8</p> <p>生・基 2-25 3-27</p> <p>算 1-10 2-13 3-10</p> <p>生・手 3-10 国 1-12, 13 2-6 3-5</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
Ⅱ 朝の時間 3 朝の会	<p>○ 朝のあいさつをしたり、音楽に合わせて体を動かしたり、先生の話の聞いたりなどして、楽しい雰囲気の中で1日の始まりを知り、1日の活動に興味・関心を持つことができる。</p> <p>○ 朝のあいさつをしたり、歌を歌ったり、係の仕事を発表したり、先生の話の聞いたりして、1日の始まりが分かり、学校生活への見通しを持つことができる。</p> <p>○ 朝のあいさつをしたり、今日の約束を発表したり、歌を歌ったり、先生の話の聞いたりして、1日の生活の始まりを意識し、学校生活への目当てや見通しを持つことができる。</p>	<p>○ あいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 始めのあいさつを言葉や動作で行う。 「姿勢」（当番） 「朝の会を始めます」 ・ 朝のあいさつを言葉や動作で行う。 「（先生）おはようございます」 ・ 友達の名前を呼んだり、指さしたりする。 ・ 呼名に応じて返事をする。 ・ 着席して自分の順番を待つ。

留 意 点			関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> 学部や学級で順序は違うが、1年間ほぼ同じ順序で朝の会を行うようにする。以下、学部ごとの大体の順序を示す。 			
<p>小 学 部</p> <p>(1) 歌</p> <p>(2) あいさつ</p> <p>(3) 出欠、健康観察</p> <p>(4) 今日の勉強</p> <p>(5) 先生の話</p>	<p>中 学 部</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>(2) 歌</p> <p>(3) 健康観察</p> <p>(4) 係の仕事</p> <p>(5) 先生の話</p>	<p>高 等 部</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>(2) 健康観察</p> <p>(3) 今日の約束</p> <p>(4) 歌</p> <p>(5) 先生の話</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 司会・進行は、可能な限り当番（順番制）にさせ、子供同士でかわり合って朝の会を進行できるように促す。 当番であることを自覚させるように、名前カードを黒板にはったり、自分の名前に印を付けさせたりなどさせる。 1日の学習の始まりなので、楽しい雰囲気のできるように、歌わせ方、先生の話などの内容を考える。 一斉指導になりがちなので、個々の課題を明確にし、指導の重点や指導方法を事前に明かにしておく。 当番に「姿勢」の号令を掛けさせ、姿勢を整えてから、始めのあいさつをさせる。 発音が不明りょうな場合には教師と一緒に言葉を添えたり、言葉が出ない子供には語頭を中心として発音させたり、手にひざを置く、頭を下げるといった身振りをさせたりなど、一人一人に応じたあいさつの指導を行う。 朝のあいさつは正しく一人でできることを目標とし、友達や教師、来客へ登校時などの時と場合に応じてあいさつができるように指導する。 あいさつは形式的でなく心のこもったあいさつができるように、心のこもったあいさつは気持ちがいいことについても触れる。 当番に、出欠を取らせる。言葉が出る子供には呼名させるとともに、言葉がない子供には、これから出席を確認する子供の写真カードや文字カードを選ばせるなどして、一人一人に応じて出席の取り方を工夫する。 右手をまっすぐ挙げさせ、「はい」と返事をさせる。 チーフの教師が当番の補助をし、サブの教師は他の子供が離席しないように言葉掛けしたり、返事や動作の補助をしたり、学習活動への意欲付けを図ったりなどする。 			<p>生・交 1-1～4</p> <p>2-3</p> <p>3-4</p> <p>生・役 1-2</p> <p>道 2-(1)</p> <p>社 4-1</p> <p>5-1</p> <p>国 1-8, 9</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
II 朝の時間 3 朝の会	<p>○ 朝のあいさつをしたり、音楽に合わせて体を動かしたり、先生の話の聞いたりなどして、楽しい雰囲気の中で1日の始まりを知り、1日の活動に興味・関心を持つことができる。</p> <p>○ 朝のあいさつをしたり、歌を歌ったり、係の仕事を発表したり、先生の話の聞いたりして、1日の始まりが分かり、学校生活への見通しを持つことができる。</p> <p>○ 朝のあいさつをしたり、今日の約束を発表したり、歌を歌ったり、先生の話の聞いたりして、1日の生活の始まりを意識し、学校生活への目当てや見通しを持つことができる。</p>	<p>○ 健康観察を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康状態を言葉や動作で表す。 <p>○ 今日の約束を決める（高等部）。</p> <p>○ 歌を歌ったり、身体表現をしたり、楽器の演奏をしたりする。</p> <p>○ 先生の話の聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の月日、曜日 天気 学習予定 <p>○ 係の仕事を発表する（中学部）。</p> <p>○ 今日の学習の予定を教師から聞き、発表する（小・中学部）。</p>

留	意	点	関連内容
<ul style="list-style-type: none"> 欠席の子供がいた場合には、名前を確認したり、写真を見せたりして、簡単に理由を話し、友達に関心を持たせる。 当番が「元気ですか」と聞き、それに「〇〇（元気）です」と答えさせる（小・中学部）。 健康状態を言葉ではっきり説明できなかったり、けがをした部位や痛い部位を知らせようとしなかったりすることが多いので、健康観察は、丁寧に行う。 健康状態の主な観点は、次に示すとおりであるが、連絡帳を基に、家庭での様子についても、しっかり把握する。また、週1回答儀検査を実施する。 顔の様子：生き生き、何となく変、疲れたような、熱っぽい、むくんだ、かさかさした 顔色：普通、黄ばんだ、白っぽい、紅潮した、チアノーゼ 目：澄んだ、うるんだ、くぼんだ、はれぼったい、くまのある、充血した 鼻：鼻水、鼻づまり 口：唇のかさかさ、口を開けたまま、よだれ 皮膚：張りのある、かさかさした、熱っぽい、外傷、発疹 姿勢、動き：つっぱり、かたい、転びやすい、ふらふら その他：言葉や反応、吐き気、嘔吐、ぜん鳴 など 			生・健 2-1 3-1, 2 理 4-1~4 5-1~4 道 3-(3)
<ul style="list-style-type: none"> 今日の約束（頑張ることなど）を一人一人に発表させ、1日の生活に対する見通しや意欲を持たせる（高等部）。 楽しい雰囲気の中で、友達や教師と一緒に、音楽に合わせて歌を歌ったり、身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりさせる。 歌は、行事に関連したもの、季節感を感じさせるもの、リズムカルなものなどの視点から数曲選ぶ。 月日、曜日、天気は、黒板にはってある数字カードや文字カード、絵カードを読ませたり、指や身体で表現させたりする。 その日の主な活動や内容、その日のニュース、社会的な出来事について話したり、気を付けることについて指示したりする。 着替えの後に行った係の仕事の内容を一人一人発表させる。（例えば、暦係には今日は〇月〇日〇曜日であることを発表させる。） 1日の学習活動を知らせ、小黒板に学習活動を書かせたり、文字カードを選ばせ、小黒板にはらせたりする。 			道 4-(6) 国 4-6 5-6 音 1-17~19 2-16~21 3-15~20 4-12~19 5-11~23 国 1-9 2-5 3-2 4-3 5-3 国 3-3 国 1-9 2-4, 18, 19 3-15

項 目	目 標	活 動 内 容
Ⅲ 授 業		
1 学習用具 の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の持ち物が分かり決まった場所に整理できる。 ○ 自分や友達の持ち物を大切に扱い、決まった場所に整理・整とんできる。 ○ 自分の持ち物や公共の物を大切に扱い、きちんと整理・整とんできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習用具を丁寧に扱う。 ○ 学習用具の整理・整とんをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ かばんやバッグをかばん棚やロッカーに整理する。 ・ 学習帳や筆箱を机の中に整理する。 ・ 使用した学習用具を始末する。 ○ 学習用具の貸借をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習用具など忘れて困っている友達に自分の物を貸したり、忘れていたら友達から借りたりする。 ・ 友達や先生、公共の物を借用するときは断わって借りる。 ・ 借りたものは、丁寧に扱って返す。
2 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 座席を離れずに話を聞いたり、教師と一緒に発表したりできる。 ○ 着席して話を聞いたり、聞かれたことを自分で話したりできる。 ○ 正しい姿勢で話を聞いたり、自分から元気よく発表したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい姿勢をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ いすに正しく座る。 ・ 手はまっすぐ挙げる。 ○ あいさつや返事をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 号令に合わせて大きな声であいさつをする。 ・ 名前を呼ばれたら大きな声で「はい」と返事をする。 ○ 発表をする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 席を立つ。 (2) いすを机の下に入れる。 (3) 自分の考えを大きな声で話す。
Ⅳ 休み時間		
1 排せつ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と一緒にトイレに行き、用をたすことができる。 ○ 一人でトイレに行き、簡単なマナーを知り、用をたすことができる。 ○ 時間や場所を考えて、一人でトイレに行き、マナーを守って用をたすことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) トイレに行く。 (2) 入り口で上履きを脱いでそろえる。 (3) トイレのスリッパを履く。

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自のロッカーやかばん棚にシールや名前カードなどをはり、持ち物をしまう場所を明確にする。 ・ 持ち物を出す、提出する、しまうなどの行動を繰り返し行わせ、行動パターンを身に付けさせる。 ・ 一つの行動が中途半端に終わることなく完結するまで指導する。 ・ 各自の持ち物には名前カードやシールなどをはり、自他の物の区別ができるようにする。 ・ 公共の物の整理・整とんに心掛け、子供たちが使いやすいようにしておくとともに、借用する際はその都度「使っていいですか」など断わって使うように指導する。 	生・決 2-6 生・基 3-34 35 生・手 3-2 道 4-(1) 生・交 3-9 社 4-3 生・決 3-7 1-6 生・交 2-6
<ul style="list-style-type: none"> ・ 机やいすの大きさや高さなど子供に応じた物を準備する。 ・ いすに腰掛けたときの背筋の伸ばし方、手や足の位置など、その都度言葉掛けして意識付ける。 ・ 授業の始めや終わりは、「これから（これで）○時間の△△を始めます（終わります）」の号令に合わせて「始めます・お願いします（終わります・ありがとうございました）」等のあいさつを元気よくさせ、学習することへの意識を持たせる。 ・ 発表を聞く子供に対して、発表の内容に「いいです」「違います」などの判断をさせ、友達の発表に注意を向けさせる。 	体 1-2 国 1-4 生・交 3-4 国 1-8 道 2-(1) 生・交 3-5 国 2-6 国 4-5
<ul style="list-style-type: none"> ・ 失敗をしたり、尿意や便意を感じたりしたら、動作や言葉で教師に知らせるようにその都度指導する。 ・ 授業中トイレに行ったり、失敗したりしないように、休み時間ごとに全体指示でトイレに行かせ、排せつの習慣を身に付けさせるようにする。排せつの調整ができるようになったら、自分で判断させて行かせるようにする。 ・ 最初は、上履きを脱ぐ位置が分かるように、上履きの形の印を付けておいたり四角で位置を表しておいたりする。そして、上履きを脱ぐ位置が定着してきたら徐々に印をなくしていき、一人で脱ぐようにさせる。 ・ 便器を汚さない位置に立つようにするために、立つ位置（便器の前）に印を付けておき、体の大きさに合わせて、次第に立つ位置を変えるようにしていく。 	生・基 1-14 15 生・基 3-9, 10 生・基 1-32 16 生・基 2-14 3-8 2-13 3-7

項 目	目 標	活 動 内 容
IV 休み時間 1 排せつ	<p>○ 教師と一緒にトイレに行き、用をたすことができる。</p> <p>○ 一人でトイレに行き、簡単なマナーを知り、用をたすことができる。</p> <p>○ 時間や場所を考えて、一人でトイレに行き、マナーを守って用をたすことができる。</p>	<p>(4) 用をたす。</p> <p><男子の排尿：体育服の場合></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 便器の前に立つ。 ② パンツや体育ズボンの横、あるいは前部を下ろして性器を出し排尿する。 ③ 性器を持ったまま手を上下に振ってしずくをきる。 ④ 性器をパンツの中にしまい、体育ズボンを整える。 ⑤ 水を流す。 <p><男子の排便、女子の排尿・排便></p> <ol style="list-style-type: none"> ① ドアをノックし、中に入っていないことを確かめてからドアを開ける。 ② ドアを閉め、かぎをする。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> (和式の場合) (洋式の場合) </div> ③ 便器をまたいで立つ。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 便器に対して後ろ向きに立つ。 </div> ④ 体育ズボン、ブルマー、パンツをひざまで下ろす。 ⑤ お尻が便器の真上に <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> にくるようにしゃがみ排尿、排便をする。 便座の上に座り、 排尿、排便をする。 </div>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ パンツや体育ズボンの横、あるいは前部から性器を出して、排尿できない子供については、次のように段階的に指導する。（含むジャージ使用） <ul style="list-style-type: none"> ア パンツや体育ズボンを脱いでする。 イ パンツや体育ズボンをひざまで下ろしてする。 ウ 体育ズボンをひざまで下ろし、パンツの前を少し下ろしたり、パンツの横から出したりしてする。 エ 体育ズボンとパンツの前部を性器が出てくる程度まで下ろしてする。 	生・基 2-17 生・基 3-15 2-13 3-7
<ul style="list-style-type: none"> ・ 制服のズボンの場合、できるだけファスナーを開けて排尿できるように指導するが、困難な場合は体育ズボンと同様、段階的に指導していく。 	生・基 2-16
<ul style="list-style-type: none"> ・ むやみにドアを開けないように、ノックの仕方を指導する。 	生・基 2-15
<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレに入る前にズボンやブルマー、パンツを脱がないように指導する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ズボンのファスナーを下げ、パンツと一緒にひざまで下ろすようにさせる。（男子：制服） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ スカートの場合は、スリッパやスカートが汚れないようにしっかりと持ち上げてからパンツを下ろすようにさせる。（女子：制服） 	生・基 1-16
<ul style="list-style-type: none"> ・ 和式のトイレに一人で座れない子供には、バーなどをつかませ、便器に座り込まないようにさせる。 	生・基 2-14 3-8

項 目	目 標	活 動 内 容
II 休み時間 1 排せつ	<p>○ 教師と一緒にトイレに行き、用をたすことができる。</p> <p>○ 一人でトイレに行き、簡単なマナーを知り、用をたすことができる。</p> <p>○ 時間や場所を考えて、一人でトイレに行き、マナーを守って用をたすことができる。</p>	<p>⑥ 紙を適当な長さに切り、尿や便をふき取る。</p> <p>⑦水を流し、全部流れたか確認する。</p> <p>⑧ 立ち上がり、パンツや体育ズボン、ブルマー、ジャージを上げ、上衣のすそを入れて服装を整える。</p> <p>(5) 手を洗う。</p> <p>(6) ハンカチを出して（タオルで）手をふく。</p> <p>(7) スリッパを脱いでそろえる。</p> <p>(8) 上履きを履く。</p> <p>◎ その他（生理の手当ての仕方）</p> <p>① ポケットやポーチにナプキンを入れ、ドアを閉める。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> 紙のちぎり方は次のように指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ア 紙をつかみ自分の胸の辺りまで一回引っ張る。 イ 片方の手で金具を押さえて、紙を持ってちぎる。 ウ ちぎった紙を半分に折り、さらにもう一回半分に折る。 便や尿の汚れが性器に付着しないように、前から後ろに向かってふくようにさせる。 ふく位置が分からない子供たちには、手を持って位置を知らせるとともに、ふいた後、紙に便がついてくることを確認させるようにする。 一人で排尿、排便ができるようになるまでは、教師と一緒にトイレに入り、座る位置やふき方などの指導をする。 一人でできるようになったら、かぎの扱い方を指導し、かぎを閉めて入るようにしていく。 片手でボタンやハンドルを押せない子供には、両手で押させるようにし、必ず水を流させるとともに、排せつ物やペーパーが流れたか確認させる。 排せつ後は、手が不潔であることを知らせ、手をなめたりしないように指導するとともに、丁寧に手を洗わせるようにする。 脱いだスリッパはそろえるように指導するが、そろえられない子供には、印（スリッパの型）に合わせるようにさせたり、脱いでからそろえさせたりする。 自分の脱いだスリッパだけでなく、そろっていないものがあったらそろえるようにさせる。 自分の家や学校以外のトイレも一人で使えるようにするために、指導方法について家庭と連絡を取るとともに、いろいろな場所でトイレに入る経験をさせる。 他教科との関連を図りながら、生理についての指導を行い、初めての子供でも不安をできるだけ軽減させるようにする。 	<p>生・基 2-17</p> <p>生・基 2-16</p> <p>生・基 1-17</p> <p>生・基 2-37</p> <p>生・健 3-6 体・保 4-8</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
IV 休み時間 1 排せつ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と一緒にトイレに行き、用をたすことができる。 ○ 一人でトイレに行き、簡単なマナーを知り、用をたすことができる。 ○ 時間や場所を考えて、一人でトイレに行き、マナーを守って用をたすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ② ポケットやポーチからナプキンを取り出し、汚物入れのふたの上にのせる。 ③ パンツと生理ショーツをひざまで下ろし、汚れたナプキンを外ししゃがむ。 ④ 汚れたナプキンを折り畳み、紙に包んで汚物入れに捨てる。 ⑤ 用をたし、紙で前から後ろに向かってふく。 ⑥ ナプキンを包んであるビニール袋やテープを取り、汚物入れに捨てる。 ⑦ 生理用ショーツにテープの付いている方を止め、ナプキンがずれたり、落ちたりしないように気を付けながら、ゆっくりと生理用ショーツを上げる。 ⑧ ナプキンがきちんと当てられているか確かめてからパンツを上げ、衣服を整える。 ⑨ 便器の周りを汚していないか確かめ、水を流してトイレを出る。
2 授業準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師や友達と一緒に、次の授業に必要な用具を準備したり、教室を移動して着席したりすることができる。 ○ 教師の指示に従って、次の授業に必要な用具を準備したり、友達と一緒に教室を移動して着席したりすることができる。 ○ 日課表や時計を見て、次の授業が分かり、授業に遅れないように自分から進んで準備することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 次の授業の準備をする。 (2) 次の授業に必要な用具を準備する。 (3) 次の授業場所に移動する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師や友達と一緒に移動する。 ・ 一人で移動する。 (4) 着席して待つ。

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初潮を迎えた子供には、母親や友達、教師などたくさんの仲間がいることを知らせ、不安になったり、情緒不安定になったりしないようにさせるとともに、女性としての意識や処置の仕方への意欲を高めるようにする。 ・ ナプキンをポケットやポーチに入れ、トイレに行くように指導していく。 ・ 汚れたナプキンの始末やナプキンのショーツへの当て方など不十分な子供には、トイレの中に一緒に入って個別に指導を行うようにする。 ・ 子供の体調や指導の仕方については、家庭と十分に連絡を取り合う。 ・ ナプキンを当てるのを嫌がったり、すぐ取りたがったりする子供には、こまめにナプキンを取り替えさせ、不快感を軽減させるとともに、友達や教師と活動したり、遊んだりする場面を多くし、気分転換をさせるようにする。 ・ ショーツが汚れたときには取り替えさせ、できるだけ自分で洗わせるようにする。 ・ 便器などを汚したら、必ずきれいにしてからでてくるようにさせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日課表などを見て確認させる。その際、個に応じて教師と一緒に調べたり、「次の勉強な何かな」と問い掛けたりする。 ・ 授業に必要な用具（ノートや筆箱、図工服等）を準備させる。その際、個に応じて教師と一緒に準備させたり、一人で準備させたりする。また、みんなで使う用具は、協力して準備できるようにさせる。 ・ 授業の開始には遅れないように言葉掛けをししたり、時計を見て行動させたりする。 ・ 移動する際は、他の学習等の迷惑にならないように、他の教室に入ったり、大声で話しながら歩いたり、走ったりしないようにさせる。 ・ 移動先の教室で靴を脱ぐ場合には、所定の場所にきちんとそろえるようにさせる。 	生・役 2-4 生・手 2-1 生・健 1-6 生・交 2-9 生・決 1-4 2-2 生・基 2-38

項 目	目 標	活 動 内 容
IV 休み時間 3 遊び	<p>○ 教師や友達と一緒に、仲良く楽しく遊んだり、後始末を手伝ったりすることができる。</p> <p>○ 友達と一緒に、決まりを守って楽しく遊んだり、自分で後始末をしたりすることができる。</p> <p>○ 自分から友達を誘い、安全に気を付けながら楽しく遊んだり、最後まできちんと後始末をしたりすることができる。</p>	<p>(1) 遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プレイヤードやグラウンドなど、外で遊ぶ（晴天時）。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車乗り ・ ままごと遊び ・ 相撲 ・ サッカー ・ 水遊び ・ 鬼ごっこ ・ ボール投げ ・ ソフトボール など ○ 室内で遊ぶ（雨天時）。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書 ・ 折り紙 ・ 絵かき ・ かるたとり ・ ボウリング ・ 乗り物遊び ・ ボール転がし ・ 輪投げ ・ トランプ ・ トランポリン など <p>(2) 後始末をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使った遊具や乗り物は、元の場所にきちんと後始末する。
4 うがい	<p>○ 教師と一緒にコップに水を入れて、口に含み吐き出すよううがいができる。</p> <p>○ 自分でコップに水を入れて、口の中をすすぐよううがいができる。</p> <p>○ 自分でコップに水を入れたり、手ですくったりしてガラガラとのどの奥までのうがいができる。</p>	<p>(1) コップを準備する。</p> <p>(2) 水道の蛇口を開けて適量の水を出す。</p> <p>(3) コップに適量の水を入れる。</p> <p>(4) 適量の水を口に含む。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天気の良いときは、できるだけ屋外で遊ばせるようにする。 ・ 屋外で遊ぶ場合は、勝手に校門から出たり駐車場などに行ったりしないようにさせる。 ・ 屋内で遊ぶ場合は周りに障害物がないかを確かめさせるとともに、遊具などの安全な取り扱いに十分注意させる。 ・ 一人で遊ぶだけではなく、できるだけ友達と一緒に遊ぶことができるように必要に応じて教師が援助する。 ・ 遊具や乗り物などは、独り占めせずに、交代で仲良く使うようにさせる。 ・ 遊具や乗り物などは、使用目的に合うように大切に扱わせ、壊したり放り投げたりすることのないようにさせる。 ・ サッカーやソフトボールなどをして遊ぶときは、他の子供の安全にも気を付けさせ、ボールやバットでけがをすることのないように注意を促す。 ・ 後始末は一緒に遊んでいた友達と協力してさせる。後始末が不確実な子供には教師が補助することで習慣化を図る。 	<p>生・遊 1-1～ 18</p> <p>生・遊 2-1～ 12</p> <p>生・遊 3-1～ 13</p> <p>体・保 4-5 体・保 5-6 職 4-43 職 5-50 家 4-42 43 家 5-43 44</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 状況（手が汚れているなど）に応じては手洗いや汗ふき等を終えてから行うようにさせ、子供の実態に応じてコップや手ですくっての方法を選択し指導する。 ・ うがいは必ず手洗い場や水飲み場で行い、他のところでしないように指導する。 ・ 水道の水の出し方が多すぎたり少なすぎたりしたら、「多いよ」「少ないよ」と言葉掛けをしながら適切な量になるようにできるだけ本人に調整させる。もし困難な場合は、教師が手を添えて蛇口の開けぐあいを教える。 ・ コップに汲む水の量も同様に指導し、コップにテープ等で印を付けておく。 ・ 子供の实態に応じたうがい（仕方や回数）を行うようにし、できるだけ教師と一緒にいき、一つの模範になるように心掛ける。 	<p>生・基 1-6 21</p> <p>2-5, 24 3-16</p> <p>生・健 1-3 2-4 3-7</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
IV 休み時間 4 うがい		<p>(5) 口の中をすすいだり、うがいをしたりする。</p> <p>(6) コップを洗い所定の場所に片付ける。</p>
5 手洗い	<p>○ 教師と一緒に手を洗うことができる。</p> <p>○ 自分でせっけんを付けて手を洗うことができる。</p> <p>○ 手の汚れを意識して、せっけんを付けて指の間や手首まで丁寧に手を洗うことができる。</p>	<p>(1) 水道の蛇口を開けて、適量の水を出す。</p> <p>(2) 手で水をぬらす。</p> <p>(3) せっけんを手のひらで回しながら適量付ける。</p> <p>(4) 手のひらと手のひら、手のひらと手の甲（左右）、指組みの3パターンでこすり洗いをする。</p> <p>(5) 流水でぬめりが取れるまで洗う。</p> <p>(6) 蛇口をしっかり締める。</p> <p>(7) ハンカチ（タオル）で手の水気をふき取る。</p> <p>(8) ハンカチをきちんと畳みポケットに入れる。（タオルをタオルハンガーに掛ける。）</p>
6 汗ふき	<p>○ 教師にタオルやハンカチでふいてもらったり、教師と一緒にふいたりすることができる。</p> <p>○ 自分でタオルやハンカチで大体の汗をふき取ることができる。</p> <p>○ タオルやハンカチを使って、汗がひくまで必要に応じてふき取ることができる。</p>	<p>(1) 清潔なハンカチやタオルを準備する。</p> <p>(2) 汗の出ぐあいに応じて必要なところの汗をふき取る。</p> <p>※必要に応じて下着や体育服などを着替える。</p> <p>(3) ハンカチをきちんと畳みポケットに入れる。（タオルを所定の場所に掛ける。）</p>

留 意 点	関 連 内 容
<p>以下、子供の実態に応じた段階別のうがいのやり方である。</p> <p>ア 水を飲み込まずに口の中に保持できるとともに、下を向いて吐き出させる。</p> <p>イ ある程度の水の保持が可能になったら、口の中でグジュグジュとすすぐような動作や水を含んだまま頭を上げることができるようにする。</p> <p>ウ 顔を上に向けたまま、ガラガラと途切れながらも息を吐き出させる。</p> <p>エ ガラガラと途切れずに息を吐き出させ、うがいの一連の動作がスムーズにできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水を吐き出すときは、水が飛びはねたり、流し台でないところに吐いたりしないように指導する。 ・ コップは流水で軽く洗い、すすいでから所定の場所にしまうようにする。 	<p>体・保 4-1 5-1, 4</p> <p>理 4-6</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道の水の出し方がうまくいかない場合は、言葉による指示や一緒に手を添えて蛇口の開けぐあいを教えるなどの援助を行う。 ・ 手が水でぬれることを嫌がる子供は、水でぬらしたタオル等でふいたり、ぬるま湯で手をぬらしたりすることで慣れさせる。 ・ 水で手をぬらしながら洗う動作から慣れさせ、次第にせっけんを使わせていくとともに、つめの間まできれいに洗うように意識付ける。 ・ うまく洗えない子供には、実際に教師が手を添えてやり、洗うことに慣れるようにする。 ・ うまく洗える子供には、手をせっけんで洗うときは水を出しっ放しにしないなど必要に応じた水の使い方なども指導していく。 ・ せっけんの流し残しや蛇口の締め忘れなど状況に応じて常に言葉掛けすることで一連の活動の定着を図る。 ・ ハンカチやタオルでふくときも、手のひらや甲、指の間など言葉掛けしたり手を添えたりして確認しながらしっかりとふくようにする。 ・ ハンカチは、しっかり畳むように、タオルは所定の場所に掛けるように指導する。 ・ 手洗やうがいの衛生的な知識理解については、保健体育の他の領域・教科を合わせた指導との関連を図りながら指導していく。 	<p>生・基 1-6, 21</p> <p>2-5, 24 3-16</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 汗が出ていることを気付かせるために、直接汗を手に触れさせたり、鏡で汗が出ていることを知らせたりしていく。 ・ 汗が出て気持ちが悪いことや汗をふき取ることによって気持ちよくなることを常に言葉掛けして意識付けるようにする。 	<p>生・健 1-3 2-4 3-7</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
IV 休み時間 6 汗ふき		
V 給 食 1 手洗い	※「IV 5 手洗い」を参照。	
2 準備	<p>○ 教師や友達と一緒に簡単な準備ができる。</p> <p>○ 教師や友達と一緒に給食当番の活動ができる。</p> <p>○ 自分から進んで給食の準備に参加することができる。</p>	<p>(1) 給食の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食着, 給食帽を着ける。 ・ 食器の準備をする。 (運ぶ, 出す, 並べる) ・ 主食, 副食の準備をする。 (運ぶ, つぐ, 配る) ・ 配ぜん台の上を片付ける。 ・ 給食着, 給食帽の後始末をする。 ・ 自分の席に着く。

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> 汗の出ぐあいや状況に応じてタオルかハンカチのいずれかを使うようにする。また、子供の発達段階に応じた大きさや素材のものを準備していくようにし、枚数なども配慮していく。 顔や首の回りなど顔を洗うときの要領でしっかりとふかせ、背中などうまくふけない部分については必要に応じて教師がふいてやる。子供や季節によっては、汗の出やすい髪の毛の生え際や顎、耳の後ろなどもふくようにさせる。基本的には次のような順序でふいていくようにすると分かりやすい。 ア 顔の中心部（口や鼻の周囲など） イ 顔の周辺部（髪の毛の生えざわ） ウ 顎から首の回り エ 腕や手 オ おなかや胸など カ 背中全体 汗がひくまで繰り返しふくように習慣付け、ふき忘れがないようにさせる。 使ったタオルやハンカチについては、畳んで戻したり、所定の場所に戻したりするように指導するとともに毎日取り替えるようにさせる。 顔など汚れていたり、にきびなどでしやすい子供がいたりしたときは、必要に応じて洗面などをさせる。 特に運動会の練習や持久走などの練習などは汗が出やすいので、常に汗ふきの指導を集中的に取り組ませ習慣付けるようにする。また、ふき方の指導の一貫として乾布摩擦等を継続指導することでふく動作や場所などを習得させる。 	体・保 4-1 5-1, 4 理 4-6 5-6
	道 1-(3) 道 4-(4)
<p>[小学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室で給食着を着けてから給食室に来るようにさせる。 3組の子供はお盆の上に牛乳やはし、パン皿など、対応するように並べさせる。 1, 2組の子供は給食着を着けさせて教室で静かに待たせ、配ぜんが終ってから給食室に移動させる。また、子供に応じて、配ぜんに参加させる。 <p>[中学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> 当番は学級ごとに一週間交代でさせるようにする。 子供の実態に応じて、食器につき分ける係、つき分けられた物を配る係などそれぞれ係を分担してさせる。 	生・基 1-2, 3 生・基 3-1 生・決 1-2 生・役 3-3 数 1-7 体・保 4-1 体・保 5-1

項 目	目 標	活 動 内 容
V 給 食 2 準 備		
3 食 事	<p>○ 教師の援助を受けて食事をすることができる。</p> <p>○ 一人で食事をするところができる。</p> <p>○ マナーを守って食事をするところができる。</p>	<p>(1) あいさつ（「いただきます」）をする。 （当番の号令に合わせて）</p> <p>① 姿勢を正し、手を合わせる。</p> <p>② あいさつをする。</p> <p>(2) 食事をする。</p> <p>○ 正しい姿勢で食べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 背筋を伸ばす。 ・ ひじをつかない。 ・ 食器を正しく持つ。 <p>○ マナーを守って食べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よくかんで食べる。 ・ つがれた量はなるべく全部食べる。 ・ 口いっぱいにはおぼらない。 ・ 必要以上に食器で音をたてない。 ・ むやみに席を立たない。 ・ 口に食物を入れたまま話をしない ・ なるべくこぼさない。

留	意	点	関連内容
<ul style="list-style-type: none"> 配ぜんが終わったら当番は給食着をハンガーに掛けて片付けさせる。給食帽は、それぞれポケットに入れさせて散乱しないようにさせる。 <p>[高等部]</p> <ul style="list-style-type: none"> 当番は学級ごとに一週間交代でさせるようにする。 当番の子供は給食着を着けさせて配ぜんをさせる。給食着は年間を通して番号を固定して、自分の給食着としての意識を持たせるようにする。 子供の実態に応じて、食器につぎ分ける係、はし、ジャム等を配る係など役割を分担してさせる。 セルフサービスの子供はほこりを立てないように静かに移動させる。子供に応じて、教師と一緒にお盆を持って移動させるようにする。 順番に配ぜんできるように言葉掛け等で誘導する。 配ぜんが終わったら当番は給食着をハンガーに掛けて片付けさせる。給食帽はそれぞれポケットに入れさせて散乱しないようにさせる。 <p>[全体]</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食前に用便や手洗いなどきちんと済ませるようにしておく。 給食着はボタン掛け、帽子の着用までしっかりさせる。 配ぜんするときは無駄なおしゃべりをしないようにさせる。 給食着の後始末はそれぞれ自分で責任を持つようにさせる。 			生・基 1-2 生・基 3-12 生・基 3-17 ~20, 29 生・決 1-2, 5 生・基 3-12 35 生・決 3-6 数 3-3 職 5-1 生・基 2-13
<ul style="list-style-type: none"> 準備後、長く待つことがないように、小・中学部は学部ごと、高等部は学年ごとにあいさつをして食べ始めるようにする。 食堂に食物や食べ方についての掲示を工夫して行い、楽しい雰囲気を作るとともに望ましい食事の仕方を呼び掛ける。 正しい姿勢が保ちやすいように身長に応じてイスやテーブルの高さを調整する。 正しい姿勢や食器の持ち方等は、適宜実際に教師が示しながら分かりやすく指導をする。 一人での摂食が困難な児童生徒は、教師が口に運ぶ、スプーンで、握りばしで、など段階を追って指導する。 個に応じて短いはしや小さめのスプーンなどを用いる。 個に応じて一度につぐ量を調節する。 			生・基 1-4 生・基 2-3 道 2-(5) 生・基 1-5, 6, 7 8, 9 10

項 目	目 標	活 動 内 容
V 給 食 3 食 事	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の援助を受けて食事をすることができる。 ○ 一人で食事をする事ができる。 ○ マナーを守って食事をする事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適度に会話を交わしながら、楽しい雰囲気食べる。 ・ なるべく好き嫌いをしない。 <p>(3) あいさつ（「ごちそうさま」）をする。 （当番の号令に合わせて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 姿勢を正し、手を合わせる。 ② あいさつをする。
4 片付け	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師や友達と一緒に片付けることができる。 ○ 一人で片付けることができる。 ○ 自分から進んで片付けることができる。 	<p>(1) 自分の食器を片付ける。</p> <p>(2) 当番の生徒は、給食室の掃除をする。 （中・高等部）</p>
5 歯磨き	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と一緒に歯磨きすることができる。 ○ 一人で歯磨きをすることができる。 ○ 自分から進んで歯磨きをし、隅々まで丁寧に磨くことができる。 	<p>(1) コップ、歯ブラシを準備する。</p> <p>(2) コップに適量の水を入れる。</p> <p>(3) 歯を磨く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯ブラシを口の中に入れて食べかすをかき出す。 ・ 歯ブラシを一部分だけ移動して磨く。 ・ 歯の全面を磨く。 ・ 正しい歯ブラシの動かし方で、歯の隅々まで磨く。

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> マナーのよくない場面では、その都度言葉を掛け、なぜよくないか（他人の迷惑になる、等）を話してマナーを守って食事することを意識させていく。 こぼしたときは、片付けの前に自分で拾うように言葉を掛ける。 会話の中で献立や材料の名前を話題にするなどして、食事内容にも関心を持たせる。 偏食については無理強いせず、段階的に指導する。 (指導の工夫) <ul style="list-style-type: none"> 栄養士と話し合い、調理方法を工夫する。 初めは一口、慣れてきたら徐々に量を増やしていく。 小さく切る、パンに挟む、御飯に混ぜるなどする。 好きな物と交互に食べるようにする。 家庭と密に連絡を取りながら協力し合って取り組む。 食べ終わった後も全員が終わるまで待っておくようにさせる。 	生・基 2-4, 5, 6 7, 8 生・基 2-10 12 家 4-10 道 3-(2) 生・基 3-3, 4 理 4-5 生・基 1-12 2-9 生・基 1-13 2-12 生・手 2-6
<ul style="list-style-type: none"> テーブルの周りやいすの下のこぼした物を拾ってから片付けさせる。 混雑しないように各学部で時間をやらずらして片付けに入るようにする。また、片付けるときは、事前に食器を種類ずつ並べて置き、食器の重ね間違いがないように、順番に並んで丁寧にかごにしまうようにさせる。 果物の皮や銀紙等は、かごや箱を用意して牛乳パックとは区別して捨てるように意識させる。 机ふき、床ふき、食器などの片付けなど、個に応じて、係を分担させる。 	道 1-(3) 道 4-(4) 生・基 1-3, 13 生・基 2-12 生・基 3-1 生・役 3-4
<ul style="list-style-type: none"> 歯磨き粉は子供の実態に合わせて使用させるようにする。 給食の後は言葉掛けして必ず歯磨きをさせるようにし、歯磨きを習慣付ける。言葉掛けしても歯磨きをしたがらない子供に対しては、「はみがきじょうずかな」などのテープをBGMとして流したり、鏡に向かって教師も一緒に歯磨きをして見せたり、歯磨きをした日はシールをはらせたりなどして、意欲付けを図るようにする。 一人で磨けない子供は、子供の手を取って鏡を見ながら一緒に磨くようにする。 前歯は、歯ブラシを上下左右に動かして磨かせる。 奥歯は、歯ブラシを奥から前にかき出すようにして磨かせる。 歯の裏側は、歯ブラシを回転させて磨かせる。 歯ブラシは、衛生的な面も考慮して、定期的に取り替えるようにする。 	生・基 1-21 2-24 3-16 道 1-(1)

項 目	目 標	活 動 内 容
V 給 食 5 歯磨き		(4) コップの水を口に適量含んで、口の中をすすぐ。 (5) 水を吐き出す。 (6) コップ、歯ブラシを洗ってしまう。 (7) タオルで口をふく。
VI 掃 除 1 掃 除	<p>○ 教師と一緒に分担された掃除場所を掃除することができる。</p> <p>○ 友達と一緒に協力して分担された掃除場所を掃除することができる。</p> <p>○ 自分から進んで友達と協力しながら隅々まで掃除することができる。</p>	<p>○ 教室掃除の場合</p> <p>(1) 椅子を机の上に上げて、後ろへ移動する。</p> <p>(2) ほうきで教室の前から後ろの方へ順序よく掃く。</p> <p>(3) 床をぞうきんでからぶきする。</p> <p>(4) 机を前へ移動し、いすを降ろす。</p> <p>(5) 残りの後ろの部分を掃く。</p> <p>(6) 残りの床をぞうきんでからぶきする。</p> <p>(7) 机や棚、黒板の溝などをぞうきんでふく。</p> <p>(8) ちりを捨てる。</p> <p>(9) ほうきやぞうきんなどの道具の後始末をする。</p> <p>(10) 手洗い・うがいをする。</p> <p>○ 教室以外の掃除場所について</p> <p>○ トイレ掃除の場合</p> <p>(1) 手袋や長靴を着用する。</p> <p>(2) スリッパを移動する。</p> <p>(3) 洗剤を付けながらブラシで便器を磨く。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自、決まったコップを使わせる。コップは、定期的に消毒する。 ・ 水をたくさん含み過ぎる子供には、最初、適量ずつコップに入れるようにする。 ・ きちんと下を向いて吐き出させるようにする。 ・ 子供が磨いた後は、磨き残しがないか確認するとともに、子供自身にも鏡を見せて食べかすなどがついていないか確認させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 掃除区域は小学部は教室を中心に行い、中・高等部は特別教室や廊下等も分担して行う。 ・ 掃除の開始時刻やアナウンスに注意を向けさせるようにする。 ・ まず窓を開けて換気を行わせる。 ・ 一人で運べない場合は、友達と二人組で運ばせるようにする。 ・ 掃く際は、ほこりが舞い上がらないように軽く押さえつけるように丁寧に掃くようにさせる。 ・ 教室の隅や狭いところはほうきを立ててちりを引き出すように使わせる。 ・ ほうきの使えない子供には、モップや掃除機等を使わせる。 ・ 子供の実態に応じて、床ふき競争などを行うことで、意欲的に取り組ませる。 ・ 移動する際は、机を引きずらないように気を付けさせる。 ・ 元の位置に戻しやすくするためにテープ等で印を付けておく。 ・ ちり取りの際は、軽く押えて少しずつ後ろにずらすようにさせる。 ・ 水が滴らないようにきつくぞうきんを絞り、きれいに広げ、畳んでからふかせるようにする。 ・ からぶきが終ったぞうきんは外できれいにはたいてから後始末をさせる。 ※ 「IV 4 うがい、5 手洗い」を参照 ※ 教室以外の特別教室や廊下、玄関等については、教室の場合を参考にしながらその場に合った掃除の仕方で行わせる。 ・ 手や足が汚れないように手袋や長靴を着用させることで、衛生面に気を付けさせる。 ・ 便器専用のブラシで便器の隅々（特に裏側）まで磨くようにさせる。 	<p>生・役 2-5 3-4</p> <p>道 4-(1),</p> <p>生・手 1-1 2-4, 5, 7, 8</p> <p>生・手 3-4, 5, 7</p> <p>生・手 3-8, 10</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
VI 掃 除 1 掃 除	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と一緒に分担された掃除場所を掃除することができる。 ○ 友達と一緒に協力して分担された掃除場所を掃除することができる。 ○ 自分から進んで友達と協力しながら隅々まで掃除することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (4) タイルに水をまく。 (5) タイルに洗剤をまく。 (6) デッキブラシで磨く。 (7) 水で洗剤を流す。 (8) ブラシやホースなどの道具の後始末をする。 (9) スリッパをそろえる。 (10) 手袋や長靴を脱ぐ。 (11) ちりを捨てる。 (12) 手洗い・うがいをする。
VI 帰りの時間 1 帰りの支度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指示や援助を受けながら、教師と一緒に帰りの支度ができる。 ○ 一人で帰りの支度ができる。 ○ 自分から進んで手際よく帰りの支度ができる。 	<p>(1) 排せつ ※「IV 1 排せつ」を参照。</p> <p>(2) 更衣をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 更衣室に行く。(中・高等部) ② 着替えを準備する。 ③ 短パン(ジャージ)のポケットに入っているハンカチやちり紙を制服のポケットに入れる。 <p>[男子]</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 上履きを脱ぐ。 ⑤ 体育シャツを脱ぐ。 <p>ア 体の前で両手を交差させ、シャツのすそを握り、両手を上の方に引き上げるようにして伸ばす。</p> <p>イ 片方の手を下ろすようにしてそでから抜く。(他の手の方も同様に行う。)</p> <p>ウ 両手でシャツをつかみ、引き上げるようにして頭を抜く。</p> <p>エ 裏返しのシャツを表にして畳む。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水が外に飛び散らないように、入口付近は、外からホースの水量を弱めてまくようにさせる。 ・ 洗剤は、かけた部分が分かるように色の付いたものを使い、まんべんなくまくようにさせる。 ・ 磨き残しがないように入口の付近から順番よく磨かせる。 ・ 磨く際はなかなか力が入らないので掛け声を掛けさせるなど工夫する。 ・ ブラシやホースは洗剤や汚れをきれいに洗い落としてから後始末させる。 ・ スリッパをそろえる際は、ぞうきんで汚れや水をよくふき取らせる。 ・ 手袋や長靴に付いた洗剤はきれいに洗い落としてから脱ぐようにさせる。 ・ ちりや汚物については、新聞紙や黒いビニール袋等を用いて見えないように始末してから捨てるようにさせる。 <p>※ 「Ⅳ 4 うがい, 5 手洗い」を参照。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中・高等部は更衣室で着替えさせる。ただし、中学部でも言葉掛けの必要な子供については必要に応じて教室で着替えさせる。中・高等部になるにしたがい、一人でできるようになる子供は増えてくるが、担任または当番の教師が必ず更衣室で指導するようにする。 ・ 片方ずつそでから腕を抜いてから、頭を抜くような脱ぎ方でもよい。 ・ 一人でできない子供には、言葉掛けをし、部分的に補助を行う。 ・ ボタンに注目させ、ボタンのある方が前部だと気付かせる。 	<p>道 1-(1) 家 4-1 家 5-1</p> <p>生・基 1-31 生・基 2-37 32 生・基 1-31 生・基 2-34 32</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
VII 帰りの時間 1 帰りの支度	<p>○ 指示や援助を受けながら、教師と一緒に帰りの支度ができる。</p> <p>○ 一人で帰りの支度ができる。</p> <p>○ 自分から進んで手際よく帰りの支度ができる。</p>	<p>⑥ シャツを着る。</p> <p>ア ボタンを外してシャツの前面を上向きに置く。</p> <p>イ 左手でシャツの右襟下を持ち、右手をシャツの右そでに通す。</p> <p>ウ 体を少しよじって右手でシャツの左襟下の部分をつかみ、左手をシャツの左そでに通す。</p> <p>エ ボタンを掛ける。</p> <p>⑦ 短パン（ジャージ）を脱ぐ。</p> <p>ア 立ったまま、両手で短パンのゴムの部分を持ち、大腿部からひざの辺りまで引き下げる。</p> <p>イ 腰を下ろし、パンツを足首の辺りまで引き下げ、片方ずつ足を抜く。</p> <p>⑧ ズボンをはく。</p> <p>ア ファスナーを下ろした状態で、前面が上になるようにして、自分の前に置く。</p> <p>イ 腰を下ろし、左右の手でベルト通しの辺りを持ち、片方ずつ足を入れズボンをひざから大腿部の辺りまで引き下げる。</p> <p>ウ 立って、ズボンを腰の所まで引き上げる。</p> <p>エ ズボンの中に、シャツのすその部分を入れる</p> <p>オ 左右の手でかぎホックを掛ける。</p> <p>カ 片方の手でファスナーの下の部分を持ち、もう一方の手でファスナーのハンドルをつかみ上げる。</p> <p>キ 左手にバックルを、右手にベルトの先端を持つ。</p> <p>ク バックルにベルトの先端を通し、ズボンが落ちないところまで締める。</p> <p>ケ バックルの止め金をベルトの穴に通す。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> 襟の部分を両手で持たせ、そのままの状態でシャツを放り投げるようにして肩に引っ掛けさせる方法もある。 次のように段階を追って指導していく方法もある。 <ul style="list-style-type: none"> ア 短パンを足首のところまで手伝って脱がせたら、後は言葉掛けして子供に脱がせる。 イ 短パンをひざのところまで手伝って脱がせたら、後は言葉掛けして子供に脱がせる。 ウ 短パンをヒップのところまで手伝って脱がせたら、後は言葉掛けして子供に脱がせる。 エ 始めから終わりまで一人で脱がせる。 腰を下ろして十分できるようになったら、一人で脱ぐ練習をさせたり、立って脱ぐ練習をさせたりする。 ズボンの前後の区別がつかない場合には、前部に子供が興味を持つような印を付けて気付かせたり、ファスナーに注目させて、ファスナーのある方が前だと気付かせたりする。 腰を下ろして十分できるようになったら、一人で脱ぐ練習をさせたり、立って脱ぐ練習をさせたりする。 それぞれの手でホックの凹部、凸部をしっかり持たせて、かぎホックを掛けさせるようにする。 ファスナーの下を持つ手は固定させ、もう一方の手はファスナーのハンドルをつかみ上げさせる。 ベルトが十分に締められない場合は補助したり、言葉掛けを行ったりする。 止め金をベルトの穴に通す際には、ベルトの先端は片手でしっかり引っ張っておくようにさせる。 止め金をベルトの穴に通せない場合は、よく穴を見るようにさせる。 	<p>生・基 3-27 32 生・基 1-31</p> <p>生・基 2-32 33</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
VII 帰りの時間 1 帰りの支度	<p>○ 指示や援助を受けながら、教師と一緒に帰りの支度ができる。</p> <p>○ 一人で帰りの支度ができる。</p> <p>○ 自分から進んで手際よく帰りの支度ができる。</p>	<p>⑨ 上着を着る。</p> <p>ア ボタンを外して上着の前面を上向きに置く。</p> <p>イ 左手で上着の右襟下を持ち、右手を上着の右そでに通す。</p> <p>ウ 体を少しよじって右手で上着の左襟下の部分をつかみ、左手を上着の左そでに通す。</p> <p>エ ボタンを掛ける。</p> <p>〔女子〕</p> <p>④ 上履きを脱ぐ。</p> <p>⑤ 体育シャツ（ジャージ）を脱ぐ。</p> <p>ア 体の前で両手を交差させ、シャツのそでを握り、両手を上の方に引き上げるようにして伸ばす。</p> <p>イ 片方の手を下ろすようにしてそでから抜く。（他の手も同様に于行う。）</p> <p>ウ 両手でシャツをつかみ、上に引き上げるようにして頭を抜く。</p> <p>エ 裏返しのシャツを表にする。</p> <p>⑥ ブラウスを着る。</p> <p>ア ボタンを外してブラウスの前面を上向きに置く。</p> <p>イ 左手でブラウスの右襟下を持ち、右手をブラウスの右そでに通す。</p> <p>ウ 体を少しよじって右手でブラウスの左襟下の部分をつかみ、左手でブラウスの左そでに通す。</p> <p>エ ボタンを掛ける。</p> <p>⑦ スカートをはく。（ジャンパースカート）</p> <p>ア スカートの両肩を左右の手でそれぞれ持つ。</p> <p>イ 腰を下ろして片方ずつ足を入れる。</p> <p>ウ スカートを引き上げ、片方のそでに腕を通す。</p> <p>エ 肩の部分のスナップを留める。</p> <p>オ 脇の部分のスナップとファスナーを留める。</p> <p>カ ベルトを締める。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ボタンやネームに注目させ、ボタンやネームのある方が前だということに気付かせる。 襟の部分を両手で持たせ、そのままの状態でシャツを放り投げるようにして肩に引っ掛け着させる方法もある。 ボタンとボタン穴の操作が難しい場合には、スナップを利用するなどして練習させる。 小学部においても、中・高学年になるにつれて、教室内に女子用の着替える場所（カーテンを閉めたコーナー）を設定し、そこで着替えさせるなどして性別への意識を持たせる。 子供によっては、片方ずつそでから腕を抜いてから頭を抜いて脱がせる。 一人でできない子供には、言葉掛けをし部分的に補助を行う。 	<p>生・基 2-32 33</p> <p>生・基 1-31</p> <p>生・基 3-27</p> <p>道 1-(1) 生・基 1-32</p> <p>2-37 生・基 1-31 2-32</p>
<ul style="list-style-type: none"> ボタンに注目させ、ボタンのあるほうが前部だと気付かせる。 子供によっては、襟の部分を両手で持たせ、そのままの状態でシャツを放り投げるようにして肩に引っ掛けさせ、着せる。 大きくて平らなボタンから、徐々に小さなボタンへと練習させる。 ボタンが持ちにくそうであったら、ボタンの操作をしやすくするために服の生地とボタンの間に余裕を持たせるようにする。 ボタンとボタン穴の操作が難しいときは、マジックテープやスナップをボタンの代わりにつけて練習させる。 下着や素肌が人目につかないようにスカートをはいてからブルマーを脱ぐようにさせる。 子供によっては、すそを頭からかぶるようにして着せたり、腕を先に通してから着せたりする。 腰を下ろしてはくことから始め、十分にできるようになったら壁などを支えにしてはいたり、立ってはいたりするようにさせる。 ベルトがうまく締められない場合は、補助をしたり、バックルの穴をよく見るように言葉掛けをしたりする。 	<p>生・基 1-31</p> <p>2-32</p> <p>生・基 2-32 33</p> <p>生・基 1-31</p> <p>2-32</p> <p>生・基 3-27</p> <p>生・基 2-33</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
VII 帰りの時間 1 帰りの支度	<p>○ 指示や援助を受けながら，教師と一緒に帰りの支度ができる。</p> <p>○ 一人で帰りの支度ができる。</p> <p>○ 自分から進んで手際よく帰りの支度ができる。</p>	<p>(つりスカート)</p> <p>ア それぞれのつりひもをスカートの左右に分け，スカートの腰の部分を持つ。</p> <p>イ 腰を下ろして片方ずつ足を入れる。</p> <p>ウ 立たせてスカートを引き上げ，腰のスナップとかぎホックを留める。</p> <p>エ つりひもを肩に掛ける。</p> <p>⑧ ブルマーを脱ぐ。</p> <p>ア 立ったまま，両手でブルマーのゴムの部分を持ち，大腿部から膝の辺りまで引き下げる。</p> <p>イ 腰を下ろし，ブルマーを足首の辺りまで引き下げ，片方ずつ足を抜く。</p> <p>⑨ 上着を着る。</p> <p>ア スナップを外して上着の前面を上向きにして置く。</p> <p>イ 左手で上着の右襟下を持ち，右手を上着の右そでに通す。</p> <p>ウ 体を少しよじって右手で上着の左襟下の部分をつかみ，左手を上着の左そでに通す。</p> <p>エ スナップを留める。</p> <p>[男子・女子]</p> <p>⑩ 上履きを履く。</p> <p>⑪ 体育服を畳む。</p> <p>(体育シャツ)</p> <p>ア 体育シャツを広げ，前部が上になるように置く。</p> <p>イ 左右のそでを畳む。</p> <p>ウ すそ(肩)の部分を持って肩(すそ)のところに合わせるようにして畳む。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腰を下ろしてはくことから始め、十分にできるようになったら、壁などを支えにしていったり、立ってはいたりするようにさせる。 ・ つりひもがもつれていないかを確認させる。 ・ 腰を下ろして脱ぐことから始め、十分にできるようになったら、壁などを支えにしていったり、立って脱いたりするようにさせる。 ・ ボタンやネームに注目させ、ボタンやネームがある方が前であることを気付かせる。 ・ 子供によっては、襟の部分を両手で持たせ、そのままの状態でシャツを放り投げるようにして肩に引っ掛けさせる。 ・ 最初は大きなスナップから練習させ、できるようになったら徐々に小さなスナップで練習させる。 ・ 左右の区別がつかない場合には、印や絵を工夫して左右を意識させる。 ・ シャツの前後を間違える場合には、前後の形の違いを教えたり、子供が分かりやすい目印を付けたりして、前後の区別がつけられるようにする。 ・ 自分の物と他人の物を間違えないように分かりやすい印を付けるなどして自分の物であるかどうか確認させる。 	<p>生・基 1-31 2-32</p> <p>生・基 1-31 2-32</p> <p>生・基 3-27 2-33</p> <p>生・基 1-32</p> <p>生・基 2-36 34</p> <p>生・基 3-12 28</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
VII 帰りの時間 1 帰りの支度	<p>○ 指示や援助を受けながら、教師と一緒に帰りの支度ができる。</p> <p>○ 一人で帰りの支度ができる。</p> <p>○ 自分から進んで手際よく帰りの支度ができる。</p>	<p>(短パン、ブルマー)</p> <p>ア 短パン、ブルマーの前部が上になるようにして置く。</p> <p>イ 短パン、ブルマーの片方の足の部分をもう一方の足に重ねるようにして畳む。</p> <p>ウ 重ねた足の部分が半分の大きさになるように畳む。</p> <p>⑫ ロッカーにしまう。</p> <p>⑬ 身なりを整える。</p> <p>(3) かばん等を棚から持ってくる。</p> <p>(4) 連絡帳や体育服等をかばんに入れる。</p>

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で畳めるようになったら、服の折り目に沿ってできるだけしわにならないように畳めるように練習させる。 ・ 汚れた服ときれいな服の違いに気付かせ、汚れがひどいときなどビニール袋に入れて持ち帰らせる。 ・ ロッカーの扉の開閉は静かにするように言葉掛けし、きちんと閉まったかを確認させる。 ・ 適宜ロッカーの様子を確認し、整理のできていない子供に対しては、個別に指導していく。 ・ 襟やすそ、ファスナー、髪などが整っているか鏡や友達同士で確認して身なりを整えさせる。 ・ かばんに入れるときには、きちんと整理しながら入れていくように適宜確認し指導していく。 	<p>家 4-1, 2 家 5-1 体・保 4-1 5-1 生・基 3-29 生・基 1-34 生・基 2-38 生・基 3-34 35</p>

項 目	目 標	活 動 内 容
VII 帰りの時間 2 帰りの会	<p>○ 先生の話をよく聞いた り、「はい」「いいえ」 などの返事で答えたりし ながら、今日一日の出来 事を思い出すことができ る。</p> <p>○ 先生の問い掛けに答え ながら、一日の生活の中 での良かったこと、悪か ったことを発表すること で今日一日の反省をする ことができる。</p> <p>○ 会順に沿って司会をし たり、自分の一日の生活 を振り返りながら、良か ったこと、悪かったこと などを発表したりしなが ら、友達同士で今日一日 の反省をすることができる。</p>	<p>○ 始めのあいさつを言葉や動作でする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「姿勢」 ・ 「帰りの会を始めます」 <p>○ 一日の反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 頑張ったこと ・ 良かったこと ・ 良くなかったこと など <p>○ 先生話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の学習 ・ 今日頑張ったこと ・ 明日の学習予定 <p>○ 帰りの歌を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで一緒に <p>○ 帰りのあいさつを言葉や動作でする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「先生さようなら」 「みなさんさようなら」
VIII 下 校 1 タイムカ ード	※ 「I 3 タイムカード」を参照。	
2 靴の履き 替え	※ 「I 2 靴の履き替え」参照。	
3 下校	※ 「I 1 登校」を参照。	

留 意 点	関 連 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつは、子供一人一人に応じて言葉や動作で行わせる。 ・ 会順に沿ってうまく進行できないときには、会順のカードを見せながら司会をさせる。 ・ 今日の授業や休み時間の様子を動作化しながら、頑張ったこと、良くなかったことなどを思い出させる。 ・ 一人でうまく発表できないときには、「今日は頑張りましたか」「今日は何に頑張りましたか」といった問い掛けをして、一日の反省をさせる。 ・ 「～に頑張りました」「～が良かったです」「～が良くありませんでした」といった友達の発表内容をお互いに確認させるように心掛ける。 ・ 教師が、子供に「○」「×」のカードを示すなどして、頑張ったこと、良くなかったことなどを確認させる。 ・ よそ見やむだ話をしている子供には、教師の方を向くように言葉掛けしたり、補助したりする。 ・ 明日の学習予定を確認するとともに、家での過ごし方（食べ物、寝る時間など）も取り上げるようにする。 ・ 教師と一緒に歌ったり、歌詞を教えたりしながら、楽しい雰囲気の中で大きな声で歌うことができるようにする。 ・ 行事に関連したもの、季節感を感じさせるものを歌うようにする。 ・ 元気よく「さようなら」とあいさつをするように心掛ける。また、礼の仕方にも気を付けさせる。 ・ 発音が不明りょうな場合には教師と一緒に言葉を添えたり、言葉が出ない子供には語頭を中心として発音させたり、手をひざに置く、頭を下げるといった身振りをさせたりするなど、一人一人に応じたあいさつの指導を行うようにする。 	<p>生・役 3-1</p> <p>国 1-9 2-6 3-3 4-5 5-4</p> <p>国 3-3</p> <p>音 2-6 3-7 4-6 3-4</p> <p>生・交 1-4 2-3 3-4</p> <p>道 2-(1)</p>

